

【オリコンサルグローバル ジャカルタでスマートシティ 駅の回遊性を向上】

オリコンサル グローバル ジャカルタでスマートシティ 駅の回遊性を向上

オリエンタルコンサルタンツグローバルの事業提案が、国土交通省の2023年度都



共同実施者のゲキダンインノが開発した歩行者共存型モビリティ

市開発案件形成支援事業費補助金（海外スマートシティ案件形成支援事業）対象事業に選ばれた。インドネシア・ジャカルタの地下鉄駅にスマートモビリティを導入して回遊性の向上、ビジネス創出などの魅力的な空間づくりにつなげる。

同社が提案したのは、『時速5kmのスマートモビリティ（歩行者共存型）を活用した、交通結節点施設周辺の歩行空間の魅力度向上に資するスマートシティ関連事業』。円借款で整備されたジャカルタ都市高速鉄道は、利用者が増加

傾向にあるものの、駅周辺商業施設との良好な接続、居心地の良い歩行空間の提供などに課題がある。

事業では、自動走行や物販・広告情報発信機能を持つ歩行者共存型モビリティを駅コンコースに導入して、改札から駅出入口までの長距離コンコースの歩行補助や、モビリティ利用者への広告・情報発信、駅テナント店の物販促進、その他の魅力的な空間に向けたストリートファニチャー設置などを実現する。

魅力ある歩行空間創出に向けたモビリティサービスの提供と関連サービスに対する有効性の実証実験を経て、ジャカルタの都市開発と親和性が高い機能を特定し、社会実装に向けた戦略策定に生かす。また、地下鉄以外の公共交通事業者や関係機関との協議を進め、ジャカルタでのスマートシティ開発の契機にする。